

平成13年9月16日(日)

AM 9:37

第四子

四女

中嶋助産院と挨拶したのは、10年ぶり。2番目の子の時にお世話になり、足とはじりか最初でした。その時は、逆子で、これと、康乃先生の助産院のスキ-教室で、これと、大雪が降っていたのでかたはへて、17:30に竹田病院に行くと出産しました。その時は、下郷に住んでいたから、転勤のために、西自河郡に引っ越し。その、子供が生まれ、また、また、こちらに転勤(南郷村の方へ)して、はおさらむくり、4人目を産むとは、思ってもいませんでした。よし、今度こそ、中嶋さんで!! ほんと、どうなのかな? と思いつつ、逆子で、右の方の助産院に... あれ!! 鍵が...
とあせっていると、~~近くで~~近くでゴルフクラブをやっていておじいさんが、予約はしてあるの? 今、鍵をあけると、声をかけてくれたので、私、康乃先生に都合の悪いことができたので、でも、大先生は、いなくて残念でした...

私は、長女を双葉町(洪水町)で、次女を金津若松で、三女を自河で、行く先で、産んでくれたので、これも縁なのでしょうね。四女は、田島でそれぞれの出産には、その住んでいた場所への思い出も重なり、ほんとに不思議な思いがあります。

さて、四女で、私の長女とは、一時期は、我ながら、よく産む気にはなれたけど不思議です。でも、これ、若草物語のような、物語の展開で、楽しんでいます。(ふふ、私の楽しい身軽は、老後にはなれませんね、トコトコ)

上、三人を病院で、最後(これ)の4人目を助産院で産むことにした。私、病院でも、結局は、助産婦さんで、(おんじいさんのお世話で、Dr.は、おんじいさんと聞かされた。助産院でかかるといふね。でも、実際、ここに産んでみると、病院は、陣痛がきて、分娩台に乗ると、楽な姿勢はとれず、ひと一人ぼろぼろ、言われたときに、おんじいさんからの出産だったような気がしました。ここは、最後まで、自分のリズムで、安心して、おんじいさん! エーお産ができたので、今までは、一番楽だったような気がします。結局、主人も、三人の娘までが自然に出産に立ち会うことに... 何、おんじいさん、おんじいさん、自然に自然に家族みんなは、一つの命を受け入れることができたので、(この助産院でもできたということでは、おんじいさん、) 2/10の予定日、15日に検診に来て「まだだ、よう、早くはお産が」と言われていたのに、その日の夜おしりした。その日、主人に「生まれるから、病院に行こうと言、でも、ビール飲んで、自分と運転していこう、おんじいさん、

はん(話し)していたら、心も焦り、主人「早く産まないと...」と驚きまじりでした。でも、昔から、なごやか言、にこやか(17、こうきり)!!というこが多からたので、私の方は、こはは、いつものことだ、と心の中で言、はから準備。おはか(は)「これほど痛くはないよ、草月(月)には生まれたぞ」という確信のもとに来院しました。なんせ「10分間隔、まだね。」なんて言われても、トレはんに立、ちよらよに歩、い、あ、もういきまたくな、あ、2-3回いきんだら、生まれた、という経過をたど、てきに私、子供にら、た、家にお、(7)にのこ、主人か、おかえに行、(1)めに、(2)子(3)だ、(4)ベ、(5)ト、(6)ら、(7)重、(8)か、(9)は、(10)よう、(11)して、(12)子供、(13)たら、(14)か、(15)来、(16)た、(17)の、(18)ま、(19)界、(20)に、(21)もう、(22)5分、(23)間、(24)隔、(25)分、(26)娩、(27)室、(28)で、(29)は、(30)もう、(31)可、(32)く、(33)い、(34)ま、(35)康、(36)乃、(37)先、(38)生、(39)が、(40)「分、(41)娩、(42)室、(43)に、(44)う、(45)つ、(46)り、(47)ま、(48)し、(49)ま、(50)う、(51)と、(52)言、(53)っ、(54)て、(55)く、(56)れ、(57)出、(58)し、(59)て、(60)い、(61)ま、(62)し、(63)た、(64)今、(65)回、(66)は、(67)し、(68)ら、(69)う、(70)私、(71)に、(72)して、(73)は、(74)一、(75)生、(76)懸、(77)命、(78)い、(79)き、(80)ま、(81)な、(82)と、(83)出、(84)な、(85)い、(86)ま、(87)す、(88)3、(89)100g、(90)の、(91)子、(92)供、(93)「(94)や、(95)っ、(96)に、(97)あ、(98)や、(99)と、(100)3000g、(101)を、(102)越、(103)し、(104)て、(105)と、(106)う、(107)れ、(108)し、(109)く、(110)な、(111)り、(112)ま、(113)し、(114)た、(115)今、(116)考、(117)え、(118)と、(119)研、(120)究、(121)に、(122)入、(123)っ、(124)て、(125)後、(126)期、(127)に、(128)お、(129)腹、(130)が、(131)は、(132)ら、(133)と、(134)い、(135)っ、(136)は、(137)横、(138)に、(139)な、(140)り、(141)寝、(142)て、(143)し、(144)ま、(145)う、(146)と、(147)い、(148)う、(149)生、(150)活、(151)の、(152)お、(153)か、(154)り、(155)だ、(156)と、(157)感、(158)激、(159)し、(160)て、(161)し、(162)ま、(163)っ、(164)た、(165)の、(166)こ、(167)し、(168)た、(169)いま、(170)ま、(171)で、(172)は、(173)は、(174)ん、(175)の、(176)かん、(177)な、(178)これ、(179)ほど、(180)ゆ、(181)く、(182)り、(183)し、(184)て、(185)と、(186)い、(187)う、(188)記、(189)憶、(190)が、(191)な、(192)い、(193)の、(194)こ、(195)私、(196)も、(197)年、(198)を、(199)と、(200)て、(201)ま、(202)あ、(203)は、(204)な、(205)と、(206)気、(207)を、(208)か、(209)わ、(210)り、(211)手、(212)ぬ、(213)き、(214)を、(215)可、(216)ぶ、(217)う、(218)に、(219)な、(220)っ、(221)た、(222)の、(223)こ、(224)と、(225)自、(226)分、(227)の、(228)く、(229)う、(230)た、(231)ら、(232)ふ、(233)り、(234)に、(235)喜、(236)び、(237)で、(238)い、(239)い、(240)の、(241)や、(242)ら、(243)か、(244)は、(245)し、(246)ん、(247)で、(248)い、(249)い、(250)の、(251)や、(252)ら、(253)と、(254)い、(255)か、(256)く、(257)目、(258)標、(259)が、(260)達、(261)成、(262)を、(263)し、(264)て、(265)う、(266)れ、(267)し、(268)い、(269)出、(270)産、(271)で、(272)し、(273)た、(274)「い、(275)き、(276)ま、(277)い、(278)ま、(279)よ、(280)と、(281)可、(282)く、(283)言、(284)っ、(285)て、(286)も、(287)ら、(288)え、(289)て、(290)これ、(291)も、(292)う、(293)れ、(294)し、(295)か、(296)っ、(297)た、(298)の、(299)こ、(300)。

出、(301)て、(302)い、(303)ま、(304)し、(305)た、(306)今、(307)回、(308)は、(309)し、(310)ら、(311)う、(312)私、(313)に、(314)して、(315)は、(316)一、(317)生、(318)懸、(319)命、(320)い、(321)き、(322)ま、(323)な、(324)と、(325)出、(326)な、(327)い、(328)ま、(329)す、(330)3、(331)100g、(332)の、(333)子、(334)供、(335)「(336)や、(337)っ、(338)に、(339)あ、(340)や、(341)と、(342)3000g、(343)を、(344)越、(345)し、(346)て、(347)と、(348)う、(349)れ、(350)し、(351)く、(352)な、(353)り、(354)ま、(355)し、(356)た、(357)今、(358)考、(359)え、(360)と、(361)研、(362)究、(363)に、(364)入、(365)っ、(366)て、(367)後、(368)期、(369)に、(370)お、(371)腹、(372)が、(373)は、(374)ら、(375)と、(376)い、(377)っ、(378)は、(379)横、(380)に、(381)な、(382)り、(383)寝、(384)て、(385)し、(386)ま、(387)う、(388)と、(389)い、(390)う、(391)生、(392)活、(393)の、(394)お、(395)か、(396)り、(397)だ、(398)と、(399)感、(400)激、(401)し、(402)て、(403)し、(404)ま、(405)っ、(406)た、(407)の、(408)こ、(409)し、(410)た、(411)いま、(412)ま、(413)で、(414)は、(415)は、(416)ん、(417)の、(418)かん、(419)な、(420)これ、(421)ほど、(422)ゆ、(423)く、(424)り、(425)し、(426)て、(427)と、(428)い、(429)う、(430)記、(431)憶、(432)が、(433)な、(434)い、(435)の、(436)こ、(437)私、(438)も、(439)年、(440)を、(441)と、(442)て、(443)ま、(444)あ、(445)は、(446)な、(447)と、(448)気、(449)を、(450)か、(451)わ、(452)り、(453)手、(454)ぬ、(455)き、(456)を、(457)可、(458)ぶ、(459)う、(460)に、(461)な、(462)っ、(463)た、(464)の、(465)こ、(466)と、(467)自、(468)分、(469)の、(470)く、(471)う、(472)た、(473)ら、(474)ふ、(475)り、(476)に、(477)喜、(478)び、(479)で、(480)い、(481)い、(482)の、(483)や、(484)ら、(485)か、(486)は、(487)し、(488)ん、(489)で、(490)い、(491)い、(492)の、(493)や、(494)ら、(495)と、(496)い、(497)か、(498)く、(499)目、(500)標、(501)が、(502)達、(503)成、(504)を、(505)し、(506)て、(507)う、(508)れ、(509)し、(510)い、(511)出、(512)産、(513)で、(514)し、(515)た、(516)「い、(517)き、(518)ま、(519)い、(520)ま、(521)よ、(522)と、(523)可、(524)く、(525)言、(526)っ、(527)て、(528)も、(529)ら、(530)え、(531)て、(532)これ、(533)も、(534)う、(535)れ、(536)し、(537)か、(538)っ、(539)た、(540)の、(541)こ、(542)。

出、(543)産、(544)後、(545)は、(546)み、(547)な、(548)い、(549)ん、(550)が、(551)書、(552)い、(553)て、(554)あ、(555)ら、(556)う、(557)に、(558)ボ、(559)リ、(560)ュ、(561)ム、(562)ト、(563)ン、(564)ボ、(565)リ、(566)の、(567)ふ、(568)く、(569)考、(570)え、(571)た、(572)食、(573)事、(574)内、(575)容、(576)に、(577)驚、(578)き、(579)ま、(580)は、(581)か、(582)ら、(583)の、(584)食、(585)事、(586)娘、(587)の、(588)「あ、(589)っ、(590)ご、(591)う、(592)か、(593)だ、(594)い、(595)な、(596)〜、(597)と、(598)思、(599)わ、(600)り、(601)ま、(602)す、(603)ん、(604)で、(605)し、(606)ま、(607)う、(608)ほ、(609)ど、(610)し、(611)た、(612)これ、(613)だけ、(614)旬、(615)の、(616)も、(617)の、(618)品、(619)数、(620)も、(621)多、(622)く、(623)予、(624)食、(625)準、(626)備、(627)す、(628)の、(629)は、(630)大、(631)麦、(632)だ、(633)と、(634)思、(635)い、(636)ま、(637)す、(638)助、(639)産、(640)婦、(641)の、(642)工、(643)事、(644)を、(645)こ、(646)ら、(647)し、(648)ら、(649)し、(650)と、(651)な、(652)り、(653)ら、(654)し、(655)ん、(656)と、(657)お、(658)母、(659)さん、(660)の、(661)世、(662)話、(663)食、(664)事、(665)の、(666)用、(667)意、(668)お、(669)店、(670)の、(671)工、(672)事、(673)を、(674)こ、(675)ら、(676)し、(677)ら、(678)し、(679)た、(680)を、(681)し、(682)は、(683)か、(684)ら、(685)疲、(686)れ、(687)て、(688)い、(689)い、(690)も、(691)や、(692)さ、(693)し、(694)い、(695)い、(696)つ、(697)か、(698)い、(699)を、(700)忘、(701)れ、(702)な、(703)い、(704)こ、(705)が、(706)可、(707)い、(708)い、(709)と、(710)思、(711)い、(712)ま、(713)す、(714)私、(715)も、(716)い、(717)つ、(718)も、(719)の、(720)生、(721)活、(722)に、(723)も、(724)ど、(725)っ、(726)た、(727)ら、(728)一、(729)日、(730)24、(731)時、(732)間、(733)有、(734)効、(735)に、(736)つ、(737)か、(738)っ、(739)た、(740)人、(741)の、(742)た、(743)め、(744)自、(745)分、(746)の、(747)た、(748)め、(749)忘、(750)実、(751)し、(752)た、(753)も、(754)の、(755)に、(756)こ、(757)き、(758)ま、(759)し、(760)ま、(761)う、(762)努、(763)力、(764)し、(765)な、(766)く、(767)ら、(768)な、(769)い、(770)と、(771)思、(772)い、(773)ま、(774)し、(775)た、(776)か、(777)ん、(778)ば、(779)ら、(780)な、(781)け、(782)れ、(783)ば、(784)か、(785)手、(786)は、(787)な、(788)い、(789)は、(790)こ、(791)の、(792)お、(793)い、(794)い、(795)吸、(796)け、(797)が、(798)吸、(799)わ、(800)れ、(801)ば、(802)か、(803)の、(804)根、(805)く、(806)ら、(807)べ、(808)で、(809)し、(810)ま、(811)う、(812)か、(813)1、(814)時、(815)間、(816)ぐ、(817)ら、(818)い、(819)泣、(820)か、(821)せ、(822)て、(823)の、(824)受、(825)乳、(826)が、(827)ま、(828)ん、(829)で、(830)ま、(831)り、(832)ま、(833)す、(834)か、(835)ら、(836)な、(837)い、(838)お、(839)父、(840)さん、(841)3、(842)人、(843)の、(844)お、(845)女、(846)市、(847)ちゃん、(848)に、(849)し、(850)ほ、(851)ら、(852)く、(853)か、(854)ま、(855)ん、(856)し、(857)て、(858)く、(859)れ、(860)る、(861)よ、(862)う、(863)に、(864)お、(865)願、(866)い、(867)し、(868)ま、(869)う、(870)ア、(871)ン、(872)の、(873)み、(874)な、(875)い、(876)ん、(877)に、(878)も、(879)備、(880)わ、(881)り、(882)ま、(883)ら、(884)て、(885)乗、(886)り、(887)切、(888)れ、(889)る、(890)よ、(891)う、(892)に、(893)し、(894)ま、(895)す、(896)ね、(897)。

他のみはさんより一日多く、ゆくりのんびり。やさしさに満ちた空間の中でおし
ものと、本当にもう食べられないというほどおはかいのいっしょに食べて置かせていた
きました。ほんとが、帰りにくはないなあ...。(娘たちの顔を見れば、戻らなく、らと
もほんとが、すばしいなあ、ほんとと思うのが、) みんは？、ここにうかり住んでしま
ひました。

だらだらととりとめのよいことを書きましたが、いろいろおかげとうございました。
康乃先生も、ちよさんも、体には十分注意され、お母さん、
どちらか安心して子供と出合える場を、と、続けていってくださるとうれい
です。又、何かお聞きしたら、よくお答えいたします。

9月16日は、真夜中12時過ぎにこの中島助産院に着きました。こんなに
遅い時間でも、私達夫婦を温かく迎えてくれたことと、あたり前のようにされた
こととでも嬉しく、いかにありがたく思っています。妻の美千代は、お産か、お産子と
あという間たといつも本人か、言っていたので、車への乗り降りはおちろん、階段
ののほりにも、大丈夫か、と男の心配をいたしましたか、部屋のベントについてら、
おせか、安心できて、私だけ4時間ほどぬておりました。(その向、お母さん
の方は、陣痛が苦しんでいたと...) この休みのあかげで、もう一度、南郷に行き、
3人の女市たちを連れ戻ることかできました。あかげで、私も含めて娘たち3人も、
すばらしい体験を共にすることができました。

やがて、娘たちも子供を産む時が来ると、思います。この日の体験は、
きっとそれそれの心に、命のすばらしさを身をもって感じと、てくれたものと思いま
す。これまで、私は、産室の外でいつも待つてあり、うまれたよ！と赤ちゃんと見てきた
ままた、ちよさん、千人団にはじめて立ち会い、その大変さかよくわかったと、言
います。先生、ありがとうございます。この子か、これから元気に育、ていってこれ子と
を願ひ、この助産院で家族一緒に、お産をできたことを感謝いたします。先生も、す
ばらしい、これからすばらしいこのお仕事を続けてい、て下さい。二瓶